

## 国語科シラバス（第1学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

文章の内容や表現の仕方を理解させるために、効果的な言語活動を行います。  
漢字練習や小テストを実施し、語句の知識を身につかせます。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えをまとめる、発表する等の学習活動を展開します。  
ワークシートを活用し、重点的に書く活動を取り入れ、自分の考えを表現する学習活動を展開します。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底して指導し、授業規律を確立させます。  
デジタル教科書などの視覚的教材を活用し、指導の工夫を図り、学習意欲を喚起させます。

### ●評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度 (関心・意欲・態度)	思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと 書くこと・読むこと)	知識・技能 (文法・漢字・ 言語活動)
評価規準	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	目的や場面に応じて、自分の考えや気持ちを明確に表現することができる。 話し手の考えや意見を聞いて、意図や目的を理解することができる。 伝えたい事実や事柄、考えをまとめ、材料を整理して適切に文章表現することができる。 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解し、自分のものの見方や考え方を広くすることができる。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する知識を身につけ活用することができる。
評価方法	提出物、ノート記述 ポートフォリオ評価 漢字・文法の確認テスト	発言、スピーチ、聞き取りテスト 課題作文、ワークシート 定期テスト、小テスト、ポートフォリオ評価	漢字・文法の確認テスト、定期テスト 小テスト、ポートフォリオ評価

### 評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>マル</sup>O=5点、A=4点、B=3点、C<sup>マル</sup>O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O	15点	A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A	14点			5
A <sup>マル</sup> O A A	13点	A A A	12点	A <sup>マル</sup> O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C <sup>マル</sup> O	8点	3
B C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	7点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	6点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C	5点	2
C <sup>マル</sup> O C C	4点	C C C	3点			1

第1学年 各学期の学習の内容とポイント

	学 習 す る こ と	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を届ける</li> <li>・情報を聞き取り、要点を伝える</li> <li>・話の構成を工夫しよう</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き留める</li> <li>・言葉を調べる</li> <li>・情報を整理して説明しよう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝のリレー」谷川俊太郎</li> <li>・「野原はうたう」工藤直子</li> <li>・「はじまりの風」蜂飼 耳</li> <li>・「ダイコンは大きな根？」稲垣栄洋</li> <li>・「ちょっと立ち止まって」桑原茂夫</li> <li>・「空の詩 3編」</li> <li>・比喻で広がる言葉の世界</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声の仕組みや働き</li> <li>・漢字の組み立てと部首</li> <li>・指示する語句と接続する語句</li> <li>・硬筆（楷書）</li> <li>・様々な表現技法</li> <li>・言葉のまとまりを考えよう</li> <li>・言葉の単位（文・文節・単語）</li> </ul> <p>【読書活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を楽しむ</li> <li>・本の中の中学生</li> </ul>	<p>○朗読やスピーチでは、以下の点に気をつけて話すことが大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと、よく聞こえるように</li> <li>・速さ、強弱に気をつける</li> <li>・問の取り方を考える</li> </ul> <p>○説明文を読むときは、段落に着目して文章を読み問題提起の部分（問いの部分）と答えの部分に着目しましょう。</p> <p>○文法学習がスタートします。文法をしっかりと理解するようにしましょう。ここでつまずくと文法が苦手になってしまいます。</p> <p>○硬筆は、校内に展示します。優秀作品は展覧会に出品します。</p> <p>○本に書かれているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしましょう。</p>
二 学 期	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き上手になろう</li> <li>・[話し合い（進行）] 進め方について考えよう</li> <li>・話題や展開を捉えて話し合おう</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目を立てて書こう</li> <li>・[推敲] 読み手の立場に立つ</li> <li>・根拠を明確にして書こう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「星の花が降るころに」安東みきえ</li> <li>・「大人になれなかった弟たちに…」米倉斉加年</li> <li>・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」鈴木俊貴</li> <li>・「大阿蘇」三好達治</li> <li>・「いろは歌」（古文）</li> <li>・「蓬菜の玉の枝」（古文）</li> <li>・「今に生きる言葉」（漢文、故事成語）</li> <li>・「不便」の価値を見つめ直す」川上浩司</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方言と共通語</li> <li>・漢字の音訓</li> <li>・言葉の関係を考えよう</li> <li>・書き初め（毛筆、字体は未定）</li> </ul>	<p>○物語、小説を読むときには、あらすじを確実に押さえ（いつ、どこで、だれが、どうした）登場人物の心情（気持ち）を考えるようにしましょう。</p> <p>○古典学習が始まります。古典学習は「習うより慣れる」ことが重要です。何度も声を出して読んでみましょう。そして、古典独特のリズムを体で覚えるようにしましょう。</p> <p>○案内文は、事柄や目的に応じた項目を立てて、相手に伝わりやすい文を書くようにしましょう。</p> <p>※説明文、小説などは、読み方を学習する教材と、それをもとにして自分で応用的に読む教材とあり、進度が異なることがあります。</p> <p>※書き初めも硬筆と同様、校内に展示し、優秀作品は市の展覧会に出品します。</p>
三 学 期	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間の学びを振り返ろう</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成や描写を工夫して書こう</li> <li>・一年間の学びを振り返ろう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ</li> <li>・「二十歳になった日」さくら ももこ</li> <li>・「ぼくがここに」まど・みちお</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の性質を見つけよう</li> <li>・漢字の成り立ち</li> <li>・漢字の練習 小学校六年生で学習した漢字</li> </ul>	<p>○漢字を学習する時に大切なことは、「読める」「意味がわかる」「書ける」ということです。漢字の意味もおさえましょう。</p> <p>○鑑賞文は、観点を決めて作品を見つめ直し、その魅力を伝える文を書きましょう。</p> <p>※小学校6年生で学習した漢字は、中学校では書けなければなりません。</p> <p>※実力テストは教科書本文以外からの出題となります。その場で読んで、その場で考え解答することになるので、授業中の質問には、自分で考える習慣をつけておこう。</p>

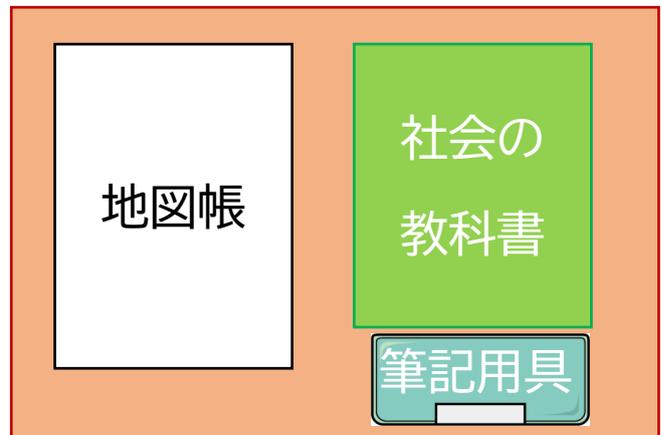
# 【1年生】社会科の授業について

しゃかい か たんとう      たざわ たくま  
**社会科担当 田澤 拓馬**

## 11年生の社会の授業

1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の姿</li> <li>日本の姿</li> <li>人々の生活と環境</li> <li>世界の諸地域</li> <li>アジア州、ヨーロッパ州</li> </ul> <p><b>【1学期期末テスト】</b></p>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域(つづき)</li> <li>アフリカ州、北アメリカ州</li> <li>南アメリカ州、オセアニア州</li> </ul> <p><b>【2学期中間テスト】</b></p> <p>—ここから歴史分野—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史へのとびら</li> <li>古代までの日本</li> <li>(旧石器時代～平安時代)</li> </ul> <p><b>【2学期期末テスト】</b></p>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世の日本</li> <li>(鎌倉時代～室町時代)</li> </ul> <p><b>【学年末テスト】</b></p>

## 授業の最初のフォーメーション



○この1年間は、およそ左のように学習が進みます。はじめは、地理分野を学習します。特に地理分野の世界各国や日本各地の地名は歴史分野と3年生で学ぶ公民分野でも必要な知識です。これ無しに、授業の十分な理解は難しいと言っても過言ではありません。2学期の途中から歴史分野を学びます。2年生は再び地理分野から学ぶ予定です。定期テストは、4回行います。

## 2成績について

### 3観点(④、A、B、③、Cの5段階評価)

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識を確実に習得しているか。</li> <li>学んだ知識を関連付けたり、組み合わせたりしているか。</li> <li>課題解決に必要な情報を集め、内容をまとめているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で取り上げられている事象を様々な「側面」や「角度」から考えられているか。</li> <li>“根拠をもとに”考えを伝え合い、考えを発展させたり合意形成させたりしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本や世界をよりよい社会にするために、そこで見られる課題を解決しようとしているか。</li> <li>生活の中で物事を様々な「側面」や「角度」から考えようとしているか。</li> </ul>
<p>〔おもに評価する場面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>技能テスト ※実施を検討中</li> </ul>	<p>〔おもに評価する場面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>普段の発言内容</li> </ul>	<p>〔おもに評価する場面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会に関係する自主学習</li> <li>定期テストの振り返り</li> </ul>

※評価(1～5の数値)の付け方は、全校統一で示されている基準とおりです。

## 数学科シラバス（第1学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 単元毎の小テストにより、計算力の向上を目指します。
- ・ 長期休業中の補習を実施します。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 式、表、グラフなどの様々な表現様式を用いて、事象の変化の様子や特徴を捉え、思考力・判断力・表現力を育成します。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・ デジタル教科書を使用し、指導の工夫を図り、意欲を向上させます。
- ・ 身近な課題を積極的に活用します。

### 評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	評価の資料
主体的に学習に取り組む態度	A：授業に意欲的に参加し、提出物を期限内に提出し、その取り組みも優れている。また既習事項を数理的に捉え、分析できる。 B：授業に参加し、提出物に取り組んでいる。既習事項を俯瞰的に捉えられる。 C：授業に積極的に参加していない又は提出物をしっかりと取り組めていない。既習事項の苦手部分を把握できる。	授業態度 ワーク・ノート・宿題等 単元ごとの分析シート
数学的な思考・判断・表現	A：数学的な見方や考え方が十分に身につけており、根拠に基づいて説明し表現することができる。 B：数学的な見方や考え方が身につけている。考え方を表現できる。 C：数学的な見方や考え方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫
数学的な知識・技能	A：知識を用いて数学的な表現や処理を行い、活用することが出来る。 B：数学的な表現や処理の仕方が身につけている。知識を備えている。 C：数学的な表現方法や処理の仕方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 テスト直し 説明力 （解き直しレポート）

各観点の達成状況 A 85%以上 B 45%以上 C 45%未満

原則、上に定めた基準で評価します。達成状況によっては基準が下がる場合があります。

### 評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>マル</sup>O=5点、A=4点、B=3点、C<sup>マル</sup>O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> O	15点	<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> A	14点	/	/	5
<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> A	13点	<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> A	12点	<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B	11点	4
<sup>マル</sup> A <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B	10点	<sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B	9点	<sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O	8点	3
<sup>マル</sup> B <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O	7点	<sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O	6点	<sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C	5点	2
<sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> O <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> C	4点	<sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> C <sup>マル</sup> C	3点	/	/	1

## 学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4 5	移行内容 整数の性質 第1章 正の数・負の数 ・正の数・負の数 ・正の数・負の数の計算 ・正の数・負の数の利用	○ 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。
6 7	第2章 文字と式 ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・文字式の利用	○ 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。
9	第3章 方程式 ・方程式 ・方程式の利用	○ 方程式について理解し、一元一次方程式を用いて考察することができるようにする。
10 11	第4章 変化と対応 ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例、反比例の利用	○ 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。
12	第5章 平面図形 ・直線と図形 ・移動と作図 ・移動と作図の利用 ・円とおうぎ形	○ 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
1 2	第6章 空間図形 ・立体と空間図形 ・立体の体積と表面積 ・空間図形の利用	○ 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。
3	第7章 データの利用 ・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率	○ 目的に応じてデータを分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようにする。また多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。

## 理科シラバス（第 1 学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 安全・正確に観察・実験を行う技能を身に付けさせます。
- ・ ねらいを明確にした授業を行い、基礎・基本を身に付けさせます。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 観察・実験の結果、記録などを、筋みちを立てて考察し、自分の考えをまとめ、他者の意見を取り入れ、深化させる学習活動を展開します。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 日常生活での事象や体験を意識した導入を行い学習意欲を向上させます。
- ・ 基礎・基本の確実な定着のために、小テスト、プリント、問題集等を活用します。

### 評価の観点と評価の資料

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の資料	実験の技能 レポート 技能テスト 定期テスト 小テスト	ノート レポート 定期テスト 考え及び考えの発想 小テスト  等	学習への態度・姿勢 ノート 提出物 忘れ物 小テスト  等

### 評価と評定の関連

○各教科の評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>○</sup>=5点、A=4点、B=3点、C<sup>○</sup>=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表のとおりです。

三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	評定
A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> A <sup>○</sup>	15点	A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> A	14点			5
A <sup>○</sup> AA	13点	AAA	12点	A <sup>○</sup> BB	11点	4
ABB	10点	BBB	9点	BBC <sup>○</sup>	8点	3
BC <sup>○</sup> C <sup>○</sup>	7点	C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> C <sup>○</sup>	6点	C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> C	5点	2
C <sup>○</sup> CC	4点	CCC	3点			1

学習内容と学習のねらい

月	学習内容	学習のねらい
4 5 6	1 いろいろな生物とその共通点 ① 生物の観察と分類 ② 植物の体の共通点と相違点 ③ 動物の体の共通点と相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観察器具の基本操作を学び、身の回りの様々な植物や動物を観察する・</li> <li>• 植物のつくりを観察し、共通点と相違点について学ぶ。</li> <li>• 動物の体のつくりを観察し、共通点と相違点について学ぶ。</li> <li>• 植物と動物の分類の仕方を整理することで植物や動物に対する理解を深める。</li> </ul>
7 8 9 10	2 身のまわりの物質 ① さまざまな物質とその見分け方 ② 気体の性質 ③ 水溶液の性質 ④ 物質の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ガスバーナー、メスシリンダー等の実験器具の基本操作を習得する。</li> <li>• 物資についていろいろな方法で実験し、特徴を見出せるようにする。</li> </ul>
11 12	3 大地の成り立ちと変化 ① 身近にある地形・地層・岩石を観察しよう ② 大地の歴史と地層 ③ 火山活動と火成岩 ④ 地震と大地の変化 ⑤ 大地の躍動と恵み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地層や岩石の観察を通して、地球の歴史を推論する力を養う。</li> <li>• マグマの活動と大地の変化、地震活動について、関連付けながら考えられるようにする。</li> <li>• 自然の恵みと火山や地震による災害について考え理解する。</li> </ul>
1 2 3	4 光・音・力 ① 光の性質 ② 音の性質 ③ 力のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 光の反射や屈折について、日常生活と関連づけて考えられるようにする。</li> <li>• 音は空気を振動させて伝わることを、実験を通して理解する。</li> <li>• 音の速さについて実験で調べるとともに、光の速さより遅いことを生活体験から認識する。</li> <li>• 物体に力がはたらいているときの様子を説明できる。</li> <li>• 力のつり合いについて理解する。</li> <li>• 圧力について、生活体験とあわせながら理解する。</li> </ul>

### 1 基礎的・基本的な知識 および 技能の習得を目指して

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱曲の作詞者、作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付ける。</li> <li>・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ読譜力を身につける。</li> <li>・鑑賞では、作曲した音楽家の時代背景や楽曲構成の理解、動画の鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行なう。</li> </ul>
歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声量があり、美しい声で歌うことが最も重要なので、積極的に声を出すことを目指す。</li> <li>・音楽の授業やいろいろな行事で歌う時には、まず第一に声量があれば高い評価につながる。歌唱テストでは声量・響き・美しさに最も重点をおく。</li> </ul>
器楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にアルトリコーダーの練習が中心となる。基本的なことを大切に取り組む。器楽は努力に比例して上達していくので、時間いっぱい練習に取り組む。</li> </ul>
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を鑑賞して感じたこと感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを学習する。鑑賞の感想を書く場合は「迫力があつた」とか「良かった」の一言だけで感想を書くのとどまることなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をする。</li> </ul>

### 2 思考力、判断力、表現力、その他の能力の育成を目指して

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心から音楽を楽しむ授業〈わくわく・どきどき・生き生き〉を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高める。</li> <li>・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで、表現力やその他の技能の向上を図る。</li> </ul>
--	---

### 3 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をする。</li> <li>・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにする。</li> </ul>
--	---

### 4 持ち物

授業の時には「音楽の教科書1」「器楽の教科書」「コーラス ステージ」「アルト・リコーダー」「筆記用具」「ファイル」を持ってくる。なお、これらは音楽用のバッグにまとめて入れ、教室のロッカー等に置いたままでさし支えない。忘れ物をした場合は減点となるので、注意すること。また各学期末には音楽の筆記試験、実技試験を実施するので、試験前には持ち帰って学習をすること。

### 5 実技 および 定期テストについて

歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声量、声の美しさ、音程、音楽の表情、姿勢・口のあけ方、言葉の発音等を観点とする。声量と声の美しさに最も重点をおくが、テストの時だけ大きな声を出しても高い得点につながるわけではない。日頃の授業の取り組みが大切である。</li> </ul>
器楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい音色を最初に見ていく。次いで指使いは正しいか、リズムは正確かを見ていく、その上で、タンギングやレガートで演奏をしているか、曲の終わりまで演奏できたか、姿勢などをみる。</li> </ul>
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の授業後の感想用紙 および 各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行なう。</li> </ul>

### 6 評価の観点と評価規準

#### ①知識・技能

- ・その時に学習している楽曲に関係する知識が必要である。各学期末に行う定期試験の結果を中心に評価する。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、

音楽を鑑賞する意欲が薄いものと判断し評価を C とする。

- ・歌唱（合唱、斉唱、独唱）、器楽演奏の実技試験を行ない、その結果を重視して評価する。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため評価は C とする。

【主な内容】 期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。

正しい音程で歌えているか、リコーダーは美しい音色で鳴らしているか、正しい指使いやリズムで演奏しているか、タンギングができていないか、姿勢など。

- 【その他】
- ①実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為および学習権の侵害など）が見られ、指導をしても改善がない場合は、評価を C とし、評定を 1 とすることがあり得る。
  - ②授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては授業出席日数が十分であっても評定を 1 や 2 とすることがあり得る。

## ②思考・判断・表現

- ・歌唱（合唱、斉唱、独唱）、器楽演奏の実技試験を行ない、その結果で評価する。
- ・実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため、評価を C とする。

【主な内容】 強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができていないか、曲種に応じた音楽的身体表現など

## ③主体的に学習に取り組む態度

- ・授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価する。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく声量のある美しい声で歌い、自分の力で音楽を表現することが大切である。自ら進んで練習に取り組む、楽曲に向き合うことも必要となる。
- ・ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は主体的に学習に取り組む気持ちが薄いと判断する。
- ・服装は、生徒手帳 および 本校生活のきまりに遵守して授業に臨むこととする。儀式に関わる科目でもあるので、服装や作法の育成も必要となる。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む気持ちは薄いものと判断する。
- ・授業に必要な物を持ってこないことが多い人は、音楽の主体的に学習に取り組む意欲が低いものと判断し、評価を C とする。

【主な内容】 授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているかなど。

## 7 評定の主な例【観点別学習状況の評価】 ※この項目では ○ を“マル”と読む

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○＝5点、A＝4点、B＝3点、C○＝2点、C＝1点）をもとに算出する。評価と評定の関連は、概ね下表（例）のとおりとする。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A○ A○ A○	15点	A○ A○ A	14点			5
A○A A	13点	A A A	12点	A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C○	8点	3
B C○ C○	7点	C○ C○ C○	6点	C○ C○ C	5点	2
C○ C C	4点	C C C	3点			1

## 8 学習計画

	題材	主な教材	主な到達目標
第1学期	思いを込めて歌おう	校歌 Edelweiss	校歌を通して大石中学校生徒としての自覚を持たせ、音楽を愛好する心情と歌う意欲を育てる。
	イメージと音楽	春—第1楽章	音楽の特徴に注目しながら情景やイメージを想像し、曲や演奏に対して自分なりの考えをもって音楽を味わって聴く。
	曲想を感じて器楽演奏しよう	アルトリコーダーの基礎	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し演奏する。
	曲のまとまりを感じて歌おう	主人は冷たい土の中に	曲のまとまりを感じ取って表現の工夫をする。
	合唱祭に向けて	合唱祭 合唱の選曲、決定、練習	合唱祭への取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
第2学期	合唱祭の取りみ 混声合唱の響きに親しもう	マイ バラード クラスの合唱曲	声部の役割を活かし、全体の響きに調和させて合唱する。合唱祭への取り組みを通して意欲的に取り組む態度や表現力を工夫し、音楽を愛好する心情を育てる。
	イメージと音楽	魔王	詩と音楽が一体となった美しさを感じ取り、曲に対する自分なりの考えをもって、音楽を味わって聴く。
	日本音楽に親しむ	赤とんぼ 浜辺の歌	旋律の抑揚を生かし、伴奏の響きを感じ取り、歌詞の内容を音楽的に表現する。
第3学期	わが国の伝統音楽に接する	雅楽の鑑賞 越天楽今様	日本音楽の魅力を感じ取り、伝統音楽に親しむ心情を育てる。 雅楽を現代の楽器に置き換えて擬似体験をする。
	器楽の楽しみ	アルトリコーダーの演奏	指使い、タンギングを理解し、演奏の仕方を考え、表現を工夫する。
	卒業式に向けて	儀式用の歌 卒業式歌	1学年の最後の合唱として、心通う合唱を作り上げる。 曲の構成や曲想の変化を生かした歌唱表現を工夫する。

年度当初の授業で、生徒たちに、ほぼ同じ内容のガイダンスを行なう。

音楽の力を身につけていくためには・・・

「音楽を支える力」と「言語力」は、“車の両輪”のような関係です。言語力を身につけるために、国語の授業にしっかりと取り組みましょう。読書に親しみましょう。それが巡り巡って「音楽を支える力」を培っていきます。

さらに深く追求したい人へ、実は音楽の美しさは、たとえて言えば、9割以上を数学、物理で合理的に説明できます。数学的に分析ができない音楽の美しさはあり得ません。それはジャンルを問わず、地域を問わず、今昔を問わずです。深く追求したい人は、数学と物理をしっかり学習してください。

その上で・・・言葉では説明できないものが積み重なるから、音楽は“芸術”なのです。最初から“言葉では説明できない”というのは、本質を追求することから逃げているに他なりません。

## 美術科シラバス（第1学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、色彩やデザイン技法の基礎を身に付けさせる。
- ・自然の造形や美術作品などについて基礎的な見方を身に付けさせる。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・豊かに発想し想像する能力や、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力を育てる。
- ・美術文化に関心をもち、良さや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- ・作品などに対する思いや考えを説明し合い、見方や感じ方を広げる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度の確立をめざして

- ・新授業六束を基本に、教科の特性を生かしながら指導を徹底する。
- ・生徒作品の展示を積極的に行い、鑑賞活動を通して制作意欲を高め、他者理解ができるようにする。

### 評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</li> <li>・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li> </ul>
評価の資料 (学習のポイント)	授業態度、提出物、忘れ物、自己評価カード、ポートフォリオ	制作時の発想やアイデアスケッチ、構想や制作計画、ワークシート	制作した作品、適切な道具の使い方

## 評価と評定の関連

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○=5点、A=4点、B=3点、C○=2点、C=1点）

をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
<sup>マル</sup> A○ <sup>マル</sup> A○ <sup>マル</sup> A○	15点	<sup>マル</sup> A○ <sup>マル</sup> A○ A	14点			5
<sup>マル</sup> A○ A A	13点	A A A	12点	<sup>マル</sup> A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B <sup>マル</sup> C○	8点	3
B <sup>マル</sup> C○ <sup>マル</sup> C○	7点	<sup>マル</sup> C○ <sup>マル</sup> C○ <sup>マル</sup> C○	6点	<sup>マル</sup> C○ <sup>マル</sup> C○ C	5点	2
<sup>マル</sup> C○ C C	4点	C C C	3点			1

## 学習内容と学習のポイント

月	学習内容	学習のポイント
4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の学習目標や内容を理解する。</li> </ul>
5	心動かす情景【絵画表現】 ～主題を生み出すとは何か～	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気に入っている場所や、気になる場所を選び、なぜそこにしたか、理由を主題に情景画を制作する。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>遠近法や構図を理解し、主題に相応しい画面構成をする。</li> </ul>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>色の効果を理解し、混色の技法を使って形を整え下塗りをする。</li> <li>水彩画の技法を理解し、ていねいに着彩する。</li> </ul>
8	《夏休み課題》 <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な風景を描く</li> <li>美術館へ行こう</li> <li>自由課題(ポスターコンクール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な風景の中に良さや美しさを感じ取り、表現する。</li> <li>美術館での作品鑑賞を通して本物の良さを味わう。</li> </ul>
9	不思議大石妖怪図鑑【立体】 ～大石中に潜む妖怪を作ろう～	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作する妖怪の設定を考え、妖怪の特徴を生かした造形を考える。</li> <li>主題を決定し、スケッチに表して構想</li> </ul>

10		を練る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 材料や用具の使い方について理解し、見通しをもって制作する。</li> </ul>
11		
12	絵文字 ~絵文字に込める自分らしさ~	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 代表的な書体である明朝体、ゴシック体について点画の決まりを理解して表す。</li> <li>• 自分を表すものや表現を考え、苗字を自分らしくデザインする。</li> <li>• 文字や文字の意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果を感じ取っている。</li> </ul>
1	ポスターデザイン ~伝えよう！そのメッセージ~	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デザイン技法の基礎を身につける。</li> <li>• 伝達の効果を工夫し、ていねいに着色する。</li> <li>• 鑑賞活動を通し、自他の作品の良さを味わう。</li> </ul>
2		
3		

## 1 学年 保健体育科シラバス

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・技能の習得に向け、基礎的・基本的な運動を行い体力の向上を図る。
- ・新体力テスト県平均値を超えることを基本とした体力・技能の向上を図る。
- ・授業のねらいを意識して、授業に取り組む。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・少人数集団、グループでの話し合い活動を充実させる。
- ・学習カードを作成し、毎時間の自己評価、反省・感想を記入させ、発表する活動を展開する。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・チャイム前着席、あいさつ、返事、時間を守るなど、授業規律を徹底し、学習活動をスムーズに行えるようにする。

### 評価の観点と評価規準

	主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	学習の約束事を守り、大きな声を出し、自ら意欲的に活動することができる。役割分担や仲間と協力して取り組むことができる。また、友達の考えや取組を認めることができる。	ねらいを持って活動し、学習カード等を利用した自己の反省・課題を見つけることができる。提示された動きなどのポイントと自己の動きを比較して課題を発見することができる。自己の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、他者に理由を添えて伝えることができる。	体の動かし方や用具の操作方法などの知識を身につけることができる。基本的な技能を身につけることができる。☆単に運動に必要な知識や技能を身につけるだけでなく、運動の行い方などの知識を基に運動の技能を身につけたり、また、運動の技能を身につけることで、その理解を一層深めることができる。
評価の方法	出席状況や忘れ物 提出物 授業中の取り組み	学習カード 授業中の発言や発表	技能テスト 単元テスト 授業中での動きや発言

## 評価と評定の関連

○各教科の評定（5段階）は、各観点の評価（A°、A、B、C°、C）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

A° =5点 A=4点 B=3点 C° =2点 C=1点

評定	観点の点数	組み合わせ例
5	15~14	A° A° A° (15) A° A° A (14)
4	13~11	A° A A (13) A° B B (11)
3	10~8	A B B (10) B B B (9) B B C° (8)
2	7~5	B C° C° (7) C° C° C° (6) C° C° C (5)
1	4~3	C° C C (4) C C C (3)

## 領域および学習内容

月	領域	学習内容
4	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方、自己生活の中での生かし方を理解する。</li> <li>各種運動の特性（特有の技術や戦術を知り、その学び方には一定の方法があることを理解する。）</li> <li>安全の確保の仕方</li> <li>自分に合った運動の仕方を身に付ける。</li> </ul>
4 5	体づくり運動 【体育祭】	<ul style="list-style-type: none"> <li>体ほぐしの運動や体力を高める。</li> <li>運動の必要性を理解させ自己の体力や生活に応じて総合的な体力を身につける。</li> <li>体の調整の仕方。</li> <li>柔軟性、巧み性を高める。</li> <li>持久力、力強い動きを高める。</li> </ul>
5 6	陸上 【ハードル走】	<ul style="list-style-type: none"> <li>走の技能をたかめ、リズミカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。</li> <li>仲間と協力しながら取り組むことができる。</li> <li>練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める。</li> </ul>
6 7	水泳 【クロール】 【平泳ぎ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の泳法で自己にあった練習課題を設定して、練習し、続けて泳げるようにする。</li> <li>安全に留意して練習する態度を育てる。</li> <li>水になれる運動</li> <li>課題別練習</li> <li>より上手に長く泳ぐための練習</li> <li>同じ課題をもったもの同志でグループ学習。</li> </ul>
9 10	器械運動 【マット】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動の基本的技能を高め、できる技できそうな新しい技に挑戦し、組合せを工夫し、楽しむことができるようにする。</li> <li>自己の課題を見付け、互いに補助活動しながら技能習得に努める。</li> <li>場の安全に留意することができる。</li> <li>課題別練習と発表会</li> <li>課題別グループ練習</li> </ul>
9 10	ダンス 【現代的なリズムのダンス】	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係を広げながら楽しくのびのびと踊れるようにする。</li> <li>自然や日常生活の中から題材を選び感性豊かに表現する。（創作ダンス）</li> <li>アップテンポなリズムに乗って全身を使って自由に踊る。（現代的なリズムのダンス）</li> </ul>
11	球技 【バスケットボール】 【ハンドボール】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。</li> <li>仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。</li> <li>コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。</li> <li>・集団的技能</li> <li>・個人技能</li> </ul>
11 12	武道（※選択） 【剣道】 【柔道】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作や基本的な対人技能を身につけさせ、その攻防による簡単な試合ができるようにする。</li> <li>・互いを尊重し、礼儀を重んじた正しい練習や試合の方法を身に付ける。</li> <li>・剣道、柔道 礼法、基本動作、技の習得、簡易試合。</li> <li>・人間関係を広げながら楽しくのびのびと踊れるようにする。</li> </ul>
11 12	球技 【ソフトボール】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。</li> <li>・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。</li> <li>・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。</li> <li>・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。</li> <li>・集団的技能</li> <li>・個人技能</li> </ul>
1	陸上競技 【長距離走】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い距離を走り通すとともに自己の記録を向上させる。</li> <li>・長距離走の走法、呼吸法、ペース配分を身に付ける。</li> <li>・練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める。</li> <li>・個人技能</li> </ul>
2 3	球技 【バレーボール】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。</li> <li>・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。</li> <li>・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。</li> <li>・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。</li> <li>・集団的技能</li> <li>・個人技能</li> </ul>
2 3	球技 【サッカー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動の基礎的技能を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。</li> <li>・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。</li> <li>・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。</li> <li>・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。</li> <li>・集団的技能</li> <li>・個人技能</li> </ul>

## 技術・家庭科シラバス（第1学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

体験的な授業、繰り返し学習を重視するなど、個に応じた指導を発達段階に応じた徹底して習得させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

小グループでの話し合いを通して言語活動の充実を図る。  
図や計画表などを使い、表現活動も充実するような課題を設定する。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底させ、チャイム前着席や提出物、学習規律の確立を図る。  
生徒の工夫し創造する力を高められるよう個が活かせる授業の設定や掲示の充実を図る。

### 評価の観点と評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、生活と技術とのかわりについて理解しているとともに、適切に作品作りを行うことができる。	生活について問題を見出し、課題を見つけ、その解決を構想し、実践を改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	生活や技術について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を充実向上するために、工夫し創造し、実践しようとしている。
評価資料	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・作品 ・実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子
評価の方法	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・製作品の出来を評価する。 ・実習中の実技の能力を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。

## 評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>マル</sup>O=5点、A=4点、B=3点、C<sup>マル</sup>O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O	15点	A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A	14点			5
A <sup>マル</sup> O A A	13点	A A A	12点	A <sup>マル</sup> O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C <sup>マル</sup> O	8点	3
B C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	7点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	6点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C	5点	2
C <sup>マル</sup> O C C	4点	C C C	3点			1

## 学習内容と指導のめあて（1年）

	月	学習内容	指導のめあて
家 庭 分 野	10	家庭分野ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術・家庭科の教科としての特徴を知る。</li> <li>小学校の学習を振り返り3年間を見通した課題を立てる。</li> </ul>
	11	【家族・家庭生活】	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長と家族や周囲の人びとのかかわりを理解する。</li> </ul>
	12	【衣食住の生活・衣生活】	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫ができる。</li> </ul>
	1	・衣服の手入れと補修	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常着の手入れができる。</li> </ul>
	2	<b>宿題：洗濯・家の手伝い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「洗濯」を休み中の課題として取り組みをする</li> </ul>
	3	・生活に役立つ物の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けた技能を活用し、安全で効率よく布を用いた物の製作ができる。</li> </ul>
		【衣食住の生活・住生活】	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの自分と家族をよりよくする方法を考える。</li> <li>家族の成長や住まい方を知る。</li> </ul>
		・住まいの働きを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除を課題として快適な住空間の整える取り組みをする。</li> </ul>
		・快適・安全な住空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者トラブルについて知り、消費行動を学ぶ。</li> <li>販売方法の特徴、物資、サービスの選択、購入及び活用を知る。</li> <li>消費者の基本的な権利と責任を知る。</li> </ul>
		【身近な消費生活と環境】	
		・消費生活のトラブル	
		・消費者権利と責任	

	月	学習内容	指導のめあて
技術分野	10 11 12 1	<p>【エネルギー変換の技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会とエネルギー変換の技術</li> <li>エネルギー資源の利用</li> <li>電気の利用</li> <li>運動の利用</li> <li>エネルギー変換による問題解決</li> </ul> <p>【生活に役立つライトをつくろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これからのエネルギー変換の技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中にあるエネルギー変換の技術を見つけよう</li> <li>エネルギー変換と利用について知る。</li> <li>電子部品を利用して、生活に役立つ回路を考え、作品の設計をする。</li> <li>電子部品の回路を製作し生活に役立つ作品を製作できる。</li> <li>電気工具を適切に使い、組み立てができる。</li> <li>電気機器の保守点検の技能を身に付ける。</li> <li>生活の中にあるエネルギー変換の技術を見つけよう</li> <li>エネルギー資源について知ろう</li> <li>燃料について知ろう</li> <li>運動の利用について知ろう</li> <li>機械の保守点検と部品について知ろう</li> <li>発電と送電について知ろう</li> <li>電気エネルギーの変換について知ろう</li> <li>電気回路について知ろう</li> <li>電気機器の扱い方を知ろう</li> <li>生活に役立つライトをつくろう</li> <li>製作品と社会を結びつけよう</li> <li>製品の未来を提案しよう</li> </ul>
	2 3	<p>【情報の技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会と情報の技術</li> <li>情報とコンピュータ</li> <li>情報の表現と伝達</li> <li>計測制御による問題解決</li> </ul> <p>【生活に役立つシステムをつくろう】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中にある情報の技術を見つけよう</li> <li>コンピュータの仕組み、構成と装置について知ろう</li> <li>コンピュータを自動で動かす仕組みを知ろう。</li> <li>処理の仕組みを知ろう。</li> <li>情報のデジタル化とその特徴を知ろう。</li> <li>生活に役立つシステムを作ろう</li> </ul>

1年生は前期に家庭科、後期に技術を行います。技術の通年の評価を2学期に記載し、家庭科の通年の評価を3学期に記載します。1学期の評定の記載はありません。

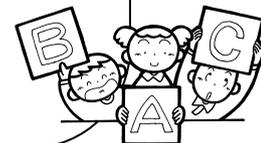
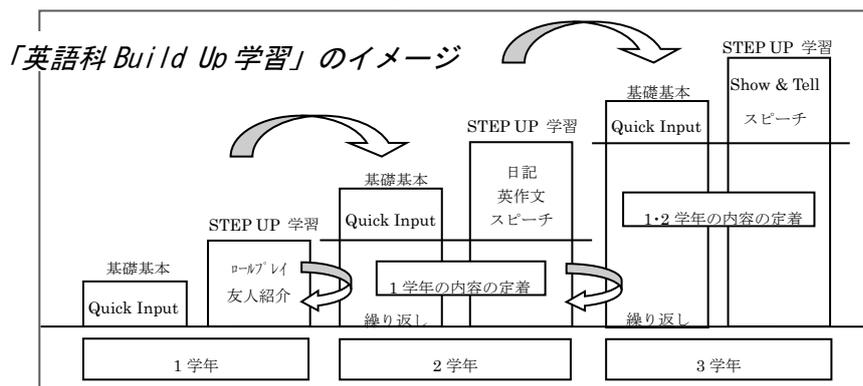
## 英語科シラバス（第1学年）

### 1. 基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- 繰り返し学習である「Quick Input 活動」では基本文の定着を目指します。
- 単語などの小テストの実施による基礎・基本の徹底を目指します。

### 2. 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- 「Quick Input 活動」や「My Project」などで、さらに実際に活用させる場面を作り応用力を高めていく「Step Up 学習」へと活動を広げていきます。
- 1 年生では「他の人を英語で紹介しよう」などの課題に取り組みます。Quick Input 活動で定型文やたくさんの表現を学び、その表現の語句を置き換えることで、自分の意見や考え、経験を文章にしていくアウトプット活動につなげていきます。



### 3. 学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- 「新授業六束」を確実に守り、授業に主体的に臨む姿勢を育成します。
- ノートやワーク、Quick Input 等を活用し、家庭学習を習慣化できるようにします。
- 授業で習った内容を定着させるため、宿題を提示します。必ず家でやりましょう。

### 4. 1 年生の目標

アルファベットの発音や書き方から学習を始め、語句や文法事項など英語の基礎を身につける。特に、教科書本文の意味がわかる（読むこと）、授業内の指示が英語で聞ける（聞くこと）、みんなの前で英文を発表する（話すこと）、自分や他の人のことなどを英文にできる（書くこと）を目標とします。

### 5. 使用教材と持ち物「5点セット」

- 教科書 1 冊（開隆堂 Sunshine 1）
- ノート 1 冊（授業用ノート）
- ファイル 1 冊
- ワーク 1 冊（文法学習用・最初の方に使うもの）
- 英和辞典 ※必要であれば



### 6. 授業について

- 休み時間のうちに授業の用意をしましょう。
- プリントはファイルにとじてなくさないように保管する。
- 宿題・提出物の期限を守ろう。
- ALT の先生に積極的に話しかけよう。
- 参加意欲や授業態度、単語テストや提出物は評価に影響します。

### 7. 英語の学習法・ポイント

- 新しくでてきた単語や文法は全て確実に覚え、書けるようにする。
- 授業中の発音、発言は大きな声で確実にする。
- 授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。
- 定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。
- “Quick Input” のシートを繰り返し音読して、反射的に受け答えできるようにする。



## 8. 評価の観点と評価規準

観点	評価内容	評価方法
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを話したり、つなぎ言葉を使って話を続けたりしようとしている。</li> <li>間違いを恐れずに積極的に言語活動に取り組める。</li> <li>積極的に音読し、わからないところは辞書を活用して読もうとしている。</li> <li>知っている語句や表現を使って相手に英文を書いて伝えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話活動</li> <li>クイックへの取り組み</li> <li>挙手、発言</li> <li>提出物等</li> </ul>
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を話したり書いたりすることができる。</li> <li>場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり、応答したりできる。</li> <li>.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>スピーチや作文</li> <li>音読テスト</li> <li>会話テスト</li> </ul>
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手の考えや意見を聞いて理解することができる。</li> <li>まとまりのある英文を読んで、あらすじやその内容を理解することができる。</li> <li>英語の言語構造を理解し、正しい語順と文法で身につけている。</li> <li>英語を使う上で必要な英語圏の生活習慣や文化的背景について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>リスニングテスト</li> <li>長文読解</li> <li>英単語テスト</li> <li>ワークシート</li> </ul>

### 評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（<sup>マル</sup>AO=5点、A=4点、B=3点、<sup>マル</sup>CO=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
<sup>マル</sup> AO <sup>マル</sup> AO <sup>マル</sup> AO	15点	<sup>マル</sup> AO <sup>マル</sup> AO A	14点			5
<sup>マル</sup> AO A A	13点	A A A	12点	<sup>マル</sup> AO B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B <sup>マル</sup> CO	8点	3
B <sup>マル</sup> CO <sup>マル</sup> CO	7点	<sup>マル</sup> CO <sup>マル</sup> CO <sup>マル</sup> CO	6点	<sup>マル</sup> CO <sup>マル</sup> CO C	5点	2
<sup>マル</sup> CO C C	4点	C C C	3点			1

## 9. 学習内容と評価のめあて

月	学習単元	学習内容・文法項目	学習のねらい
1 学 期	Get Ready 1~6	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語でのあいさつ、授業で使う英語の指示</li> <li>アルファベットに慣れよう</li> <li>アルファベットが表す音を聞こう。</li> <li>アルファベットを書こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつしたり、やさしい指示を聞いて行動したりすることができる。身の回りの英語を聞き取れる。</li> <li>アルファベットの文字と音の関係</li> <li>アルファベットを書ける。</li> </ul>
	Program 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>I am ~. You are ~.</li> <li>Are you ~? I'm not ~.</li> <li>Where are you~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な自己紹介を書ける。</li> <li>相手のことを表現したり、たずねたりできる。</li> <li>どこにあるのか尋ねられる。</li> </ul>
	Program 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞</li> <li>Do you~? ・I don't ~.</li> <li>When do you~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞 (play, like, eat など) を用いて、自己紹介をすることができる。</li> <li>Do を用いた疑問文とその応答文を理解し、身の回りのことについて情報収集ができる。</li> <li>When を使って時を尋ねる表現ができるようになる。</li> </ul>
	Program 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>I can~.</li> <li>Can you~?</li> <li>What can you ~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分ができることやできないことについて、英語で自己表現ができる。</li> </ul>
	Program 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>This is~. That is~.</li> <li>He/She/It</li> <li>Who is~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や身の回りの物を紹介したり、たずねたりできる。</li> <li>人物について尋ねられる。</li> </ul>
	Our Project 1	あなたの知らない私についてスピーチをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話したい内容をマッピングで整理して、まとまりの良いスピーチをする。</li> <li>聞き手がわかりやすいように、適切な声の大きさやスピードで発表する。</li> <li>アイコンタクトやジェスチャーを交えて発表する。</li> </ul>

2 学期	8 9 10 11 12	Program 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三人称単数形 (She plays .)</li> <li>• Does ~ ? / She doesn' t like~ .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほかの人のことについて言ったり、尋ねたりできる表現を学び、第三者についてより多くの情報を得る。</li> </ul>
		Program 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• him / her</li> <li>• Why do you~? Because~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 理由をたずね、それに答えられる。</li> </ul>
		Program 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• There is / are ~.</li> <li>• Are there~?</li> <li>• How do you~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人やものの存在を言える。</li> <li>• 方法や手段をたずね、それに答えられる。</li> </ul>
		Program 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在進行形 (I am cooking .)</li> <li>• What are you doing?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今起きていることを相手に伝えることができる。</li> </ul>
		Our Project2	<p>紹介したい人物についてスピーチしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「導入」「展開」「まとめ」の3つの構成に沿ったスピーチをする。</li> <li>• 紹介したい人物について、複数の特徴を入れて説明する。</li> <li>• 発表を聞くときの姿勢に気をつけながら、友達のスピーチを聞く。</li> </ul>
3 学期	1 2 3	Program 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>• I visited .</li> <li>• Did you ~? / I didn' t~.</li> <li>• I went to~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般動詞の過去形 (規則) を用いて、過去について表現したり、質問したりできる。</li> <li>• 一般動詞の過去形 (不規則) を用いて、過去について表現したり、質問したりできる。</li> </ul>
		Program 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>• I was ~.</li> <li>• Were you~? • Was he ~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 過去の状態を表現できる。過去にしていたことを発表できる。</li> </ul>
		Our Project3	<p>「私が選んだ1枚」についてスピーチをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発表する写真について、自分が選んだ理由を説明する。</li> <li>• 聞き手を見渡ししながら、聞き取りやすい声量、スピードで発表する。</li> <li>• 発表を聞くときの姿勢に気をつけながら、友達の発表を聞く。</li> </ul>